

公益社団法人 私立大学情報教育協会  
第3回 歯学教育FD/ICT活用研究委員会 議事概要

I. 日 時 平成24年8月21日(火) 13:30~15:30  
場 所 公益社団法人 私立大学情報教育協会事務局会議室

II. 出席者 神原委員長、佐藤委員、花田委員、新井委員、藤井アドバイザー、奥村アドバイザー  
(事務局 井端、森下、平田)

III. 検討事項

昨年度まとめた「学士力(コアカリ)実現に求められる教育改善モデルを実現するための教育力について検討」について、今回は、「歯学教育における改善モデル」の背景、モデルの編集(例示、説明の追加)を以下のとおり検討した。

「大学教育への提言報告書」発行に向けて9月完成をめざすことを確認し作業に入った。大学教育への提言報告書の目次(試案1)・2章「歯学教育における教育改善モデル」について、2章・第2節 到達目標の一部を実現するための「教育改善モデル」を骨子として内容をまとめた。

また、前回宿題になった課題について、その内容について検討を行った。

1. 学士力(コアカリ)実現に求められる教育改善モデルの検討

教育改善モデルの背景について、その文言を検討・修正を以下のとおり検討し、具体的でわかりやすいよう変更を行った。また、モデルの編集として、モデルに挿入するイメージ図などについても確認、検討した。

(1) 教育改善モデルの背景

① 第1段落

「10年後には、口の健康な日本人が多数を占めるようになると予測された。」  
について、「多数を占める」は統計的に曖昧であるとの指摘があり、「健康増進傾向は今後とも加速されるものと予測される。」に修正を行う。

② 第2段落

健康寿命を延ばすための考え方を、歯科口腔保険法のもと10年後の健康目標が設定され、各地で歯科検診の定期的受診を進めるという流れでまとめたほうが良いとの指摘で、内容を修正した。

③ 第3段落

現在の歯科医学教育が歯科医療技術偏重となっていることを重視して10年後の歯科医療環境に望まれる歯科医学への変革を求めるという内容で修正した。

④ 第4段落

これからの歯科医師養成の疾病予防のための広域健康管理、サイエンスの重要性を鑑み、他学問領域の連携を具体的に示し地域・地球レベルでの構想を示すことで修正した。

⑤ 第5段落

上記の内容を示し、具体的な教育改善モデルを示した。

(2) 教育改善モデルの編集(例示、説明の追加)

① 授業の仕組み(資料②.1)について

ファシリテータについては、対象が教員であるように変更した。また、コンソーシアムの形成は冒頭に教員連携を挿入することにし、最終変更を担当委員に再度提出を依頼した。

② 達成力評価シート(資料②.2)

内容が歯学教員教育力評価シートであることから、内容を達成力評価シートに変更をお願いすることにした。

③ ライフステージにおける予防に説明(資料②.3)

幼年期から更年期までの6ステージについて説明しているが、スペースの関係上4ステージに修正することとした。

④ 歯科医療分野における多職種間の連携・協力（資料②.4）

図の中央にある「患者・家族」は「健康」に変更した。また、産業保険、産業医は再度検討することとした。

2. 今後の検討スケジュール

今後のスケジュールは上記課題を9月末までに完成し、10月中に印刷、11月に公表を予定している旨事務局から説明がなされた。資料の修正・変更は9月10日（月）までに提出し、次回の委員会で検討することとした。

IV. 次回委員会と課題

今回は9月20日（木）13：30より開催することにし、歯学教員の教育改善モデルの背景、モデルに挿入する具体的な例示、図なども完成することとした。